

文化がいかに人々の血となり肉となりえるか。

ジョン・F・ケネディは、ホワイトハウスにパブロ・カザルスはじめ著名な音楽家を招いてしばしば音楽会を開いた。カーター前大統領も大ピアニスト、ホロヴィッツをホワイトハウスに招いてリサイタルを開いた。その時の模様をいつかテレビで見たが、ホロヴィッツといえば世界最高の巨匠。幻のピアニストとしていまやステージに立つこともほとんどないが、百人ばかりの招待客の待つサロンにホロヴィッツを伴って現われたカーターの短い挨拶がまた素晴らしかった。なんの気取りもなく的確にホロヴィッツの芸術を撈とかけ離れたスマートなものだった。

高齢のホロヴィッツがまず弾いたのは、なんとアメリカ国歌「星条旗」だった。全員が立ち上がったこの巨匠のメロディーに聴きいる姿は全く自然で何とも羨ましくなるような光景であった。我が国でこうしたことがもしあったとしても、招待されたピアニストがまず「君が代」を奏するであろうか。カーターのような気の利いたスピーチも出来ないし、だいたい総理大

「文化力」こそ本質的な政治力なのである。

らは国際会議ひとつにしても、経済力だけがすべてではない。指導者の文化的なセンスなり、その国の「文化力」というものが大きな説得力を持つようになってきた。つまり「文化力」こそ本質的な政治力なのである。

文化庁月報(62年8月)
知事随想「文化力」より



いうことなのである。しかし、これか

臣官邸でこの種の文化的な催しがもたれることも欧米に比べればはるかに少ない。欧米における文化がいかに人々の血となり肉となっていてるか、改めて感じた次第だが、そういうスピーチにとどまらず政治家の文化的な資質もだいぶん欧米とは差があるように思う。



●美術館コンサート
9月19日土曜、熊本城二の丸公園内の県立美術館吹抜けホールで、コンサートが開かれました。



KD21、くまもと産業デザイン協議会発足。
「熊本らしい熊本」をデザインという面からアプローチしていこうと、県内のデザイン関係者が一堂に集い、研究に努め、質の向上を図ることを目的に「くまもと産業デザイン協議会(略称KD21)」が、九月一日に発足しました。KD21では、デザインセミナーやデザイナーバンクなどを企画し、デザイン情報の提供などを行うほか、九月末から十月にかけて、「くまもとデザインフェア'87」を行う予定です。

テクノリサーチパーク内に、「熊本大学地域共同研究センター」建設。

九月七日、熊本大学は民間企業との共同研究施設「熊本大学地域共同研究センター」を益城町のテクノリサーチパーク内に建設するための進出協定を、果と町との間で結びました。今月中旬にも着工し、六十三年三月に完成の予定。産学共同研究のため、学外に施設を建てるのは熊本が全国初で、産学官一体となったテクノ構想の実現にまた一歩近づきました。



「熊本空港周辺整備構想」まとまる。

県は、熊本空港周辺を、二十一世紀に向けた戦略拠点とした、熊本空港周辺地域の整備構想をまとめました。対象となるのは、テクノリサーチパークを含む、四百八十八ヘクタールの地域。情報や宿泊サービスを提供する「複合サービスゾーン」、研究施設を集めた「ハイテクパーク」や「空港公園」などの七つのゾーンを設定し、熊本の表玄関としてのいっそうの発展をめざします。

新設の県立高、名称は「東稜高校」に決定。
熊本市健康町小峯の県茶業試験場跡地に開校予定の県立高校の名称が、「東稜(とうりょう)高校」に決まりました。同校には普通教育を柱に、国際コース、理数コース、情報科学コースも設置されます。校舎は熊本大学木島安史教授の設計で、緑豊かな「学びの森」の中に、県産材をふんだんに使い、教師と生徒の自由な「ふれあい」の場「キーステーション」を設けるなど、二十一世紀を担う人材を育成する高校づくりを目指しています。地域文化の新しい拠点としての、今後の役割が期待されます。

